

令和5年度第2回運営委員会 議事概要（案）

- ・開催日時 令和6年3月7日（木）10時00分～12時00分
- ・出席者 運営委員・・・・・・12名出席（欠席委員：3委員）
 ウィズセンター・・・・所長、次長、副参事、情報交流員

議事	概要
<p>1 開会</p> <p>2 委員の紹介</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 令和5年度事業の実施状況及び令和5年度ウィズセンターの利用状況について</p> <p>[質疑等]</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p>	<p>ウィズセンター説明</p> <p>・ウィズカレッジや男性の家庭生活への参画講座の「リクエスト上映会」について、参加者がゼロとなっているが、平成6年度も引き続き「リクエスト上映会」という事業を実施するのか。次に来所講座・出前講座が3件ずつということ、もう少し多めに開催した方が良いと思うが、講師はどのような方が務めているのか。</p> <p>・リクエスト上映会の講座は全部で10講座あったが、受講者は26名が参加した。来年度も引き続き、インターネット環境が整っていない方、インターネットの使い方がよく分からない方、高齢者の方等に対し、リクエスト上映会は、来年度も引き続き実施したいと考えている。</p> <p>・出前講座・来所講座の講師については、所長が出向いて実施したものと、来所講座では、情報交流員が講師を行うなど担当を分けながら実施している。</p> <p>・県民の求心力を男女共同参画へ向けるという観点から、このウィズセンターへの求心力を高めるため、質の高い講座を提供する必要がある。</p> <p>・リクエスト上映会の参加者がゼロという講座が2つあるが、質の高い内容だと見受けられる。しかし、数日間で全6講座とか、全4講座というのを視聴する形では、敷居が高い。また、6回とか4回ならば長い時間を要するため敬遠されたのではないかと。可能ならオンデマンドで常時公開して、それで見たい人が、自分の都合のいいときに視聴できるような形にしておくべきだ。</p> <p>・当初、講師との契約の中で、期間を定めて契約をしている。後から、この</p>

議事	概要
委員	<p>講座は良いからもっと延長したい案件もあったが、もっと多くの人に聞いていただくような契約の仕方を予算の関係もクリアしながら、令和6年度以降、研究しながら実施したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴がなくても、何か契約料の様なものを支払っているのなら、無駄なお金を使っている気がするが、どうか。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・当初から決めている視聴期間に加えて、別途、オンラインで視聴会をやるということで講師に込みの料金でお願いしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・契約されるときに、録画をしてアーカイブに置いて、後で見たいという方が、1年～2年間見られるようにできる契約にしておけば有効に講演の動画が使えると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1ページの2のゼミナール事業ですが、2の(a)(b)、1ページ、2ページにわたる「2 男女ゼミナール事業」、これのみ参加者数をまとめられているが、各回のデータは、まとめずに、個々の回の参加者を記載できないか。また、どのような内容だったか。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)の地域リーダー養成講座は連続講座で、すべての回に参加いただくという形で募集した。それに全部参加した方を、ゼミナール事業を完了したという形で進めたため、参加者の欄にはそれぞれの日付毎でなくて、合計の数字を記入している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この修了者は、最終で15人で、認定者が2人だが、全部出た方が15人だったという理解でいいか。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・修了者とする条件が、全体の3分の2以上で、かつ、(b)のネットワークづくり講座を1講座以上受講した方というのが条件となっている。今年度に関しては、全部で8講座あるが、5講座以上受講して、かつ(b)のネットワークづくりにも参加した方が15人ということである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・後半の31人は、登録されている数なのか。毎回参加者を出した方が分かりやすい。前半の88人がオンデマンドで視聴している。後半の31人は何を指しているのか。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・申し込みの人数として、(a)のみの申し込みが88人で、(a)プラス(b)の申し込みが31人の申し込みということである。最終的には、修了者が15人なので、この31人の中に、条件を満たした者が15人いたという状況になる。88人の中には、(b)の参加者はゼロである。(a)の地域リーダー養成講座のみという申し込み受け付けをしたため、88人の中には、(b)の講座を受けた方はいない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)をたまたま休み、(b)だけに来たケースはあるが、(b)単独での申し込みはないということか。毎回、同じ資料の形式なので、分かりやすくして欲しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、去年は(a)を3分の2以上受講した。今年度は、(b)のネットワ

議事	概要
ウィズセンター 委員	<p>ークづくりを受講した。そうすると、条件は満たすので、年度をまたいで、そういう方は認定できる制度を取れないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数年で認定できるかどうか、来年度に向けて検討したい。 ・リクエスト上映会について、講座形式になると、受け身の形になってしまうため、ワークショップみたいな形で開催できないか。異業界であっても悩みは同じというようなどころもあるので、参加者の交流が図られ、その後もお互いに連絡を取れるので、検討して欲しい。
ウィズセンター 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そういったワークショップも取り入れながら講座を展開していくことも検討したい。 ・ウィズカレッジ事業で、最も参加者が多いのが、9月に開催された防災のテーマだが、関心が高かったのか。防災は関心の高いテーマなので次年度も実施していただきたい。
ウィズセンター 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、災害が多いため、社会的に、避難所での女性のケアとその対応が社会的に注目を浴びている。この講座自体が、オンデマンドだが、センテンス毎に動画を5編に分けて構成した。そのため受講しやすかった面もある。さらに、配信期間を2カ月とし、他の講座に比べ配信期間を増やして実施した。 ・DVの相談が前年度よりも減っている理由は何か。また、可能な限りでいいので、DVの内容と他機関の連携をうかがいたい。
ウィズセンター 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・件数については、若年層、19歳以下、20歳～29歳、それから30歳～39歳というところが70%と減っている。若年層の方は、電話相談ではなく、内閣府の実施しているDVプラス事業といった、SNS相談をしている方が多いと推測している。 ・一般相談の流れは、色々なパターンがあるが、DVの事案であれば、複数回の相談となることがほとんどである。相談者がDVと気付いていない場合が多いが、DVという気づきをしていただき、それからどうしていくか、相談者の気持ちに寄り添いながら相談を続けていく。相談者が離婚に至る場合、色々な法手続きや法律相談に繋がったり、こころの相談に繋いだり、グループワークに来たり、自立できるようになるまで、寄り添っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・意見、感想を述べさせていただく。DV相談に関連したことであるが、コンビニ等で女性トイレに入ると、「もしDVを受けていたらこちらへ」という紙が貼ってあって目につくが、男性トイレにはあるのか。ないようなら、男性の目にも触れさせるほうが良いと思う。
委員 ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・この総合相談の件数について、のべ数と実数とを分けて出せないか。どのくらいの実数なのかを把握できるほうが正確である。相談件数は減っているけれど実数は増えているということもあると思う。可能な範囲でそうしていただけないか。 ・匿名の電話もあるが、可能な範囲で検討してみたい。

議事	概要
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズプランの数値目標の箇所について、具体的にウィズセンターが実施することになっている箇所が二カ所ある。 一カ所は男性の割合。講座への参加の男性の割合が、今は16%だけれども、再来年度の2025年度には3割にしないといけない。次に何か本当にやらないと、30%には遠く及ばない。具体的に何をするのか。 もう一箇所は再就職の講座の受講者数をかなり増やすという目標である。ウィズセンターがやっている再就職の講座を、例えば145名を500名に増やすというように、ウィズセンターで実施する再就職支援のための講座の参加者数というのは、資料のどの箇所になるのか。 ウィズセンターが実施する再就職支援のための講座の参加者数を、令和元年の145名から令和3年から令和7年の累計で500名にするという目標が、ウィズプランに出ているが、2023年度はどうだったのか。これは資料のどこにあるか。9ページの就業相談事業というところが、それに当てはまるのか。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・再就職の事業の数値目標は、ウィズプランに載っているが、以前はウィズセンターで「キャリアアップ講座」という再就職のための講座をやっていて、そういうもので増やしていた。現在は11番の就業相談事業がそれに当たる。再就職事業は今後の課題と認識している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズプランの数値目標の箇所でウィズセンター名が出てくるのは、わずか二箇所しかないため、この一つが欠けているというのは、かなり問題である。我々委員の責任が問われる。ウィズプランの二項目について、もう少し意識していただきたい。
(2) 令和6年度 男女共同参画関 連事業の施策体 系及び令和6年 度事業計画案に ついて	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズセンター説明
委員 ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業は、「女性のキャリア形成応援事業」のみか。 ・そうです。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度に新しく女性のキャリア形成応援事業を実施されるとのことだが、具体的な内容が決まっているのか。 ・ウィズカレッジのリクエスト上映会で参加者がゼロという中身を見ると、女性が活躍していく社会に向けて非常に重要な講座に全然参加されていないことは、もったいない。届けたい層に講座の情報が届いているのか。今後、情報の届け方、PRの路線、SNSの利用の是非を教えて欲

議事	概要
ウィズセンター	<p>しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性のキャリア形成応援事業については、女性がキャリアを築く上で問題解決に役立つ講座をやっていききたいということであるが、具体的なテーマ案は4点ある。 ・まず1番目は、仕事と家庭の両立の手法を取り上げたい。家事も行いながら仕事も行うということであると、両立が非常に困難である。それが理由でキャリアの形成をあきらめる女性も多い。従って、家事の省力化や配偶者との家事分担の見直し方、仕事と家庭の両立に役立つような情報を学べるような講座を、一つ目の案として考えている。 二つ目は、女性特有の健康課題への対応である。体調不良や更年期障害、女性特有の健康問題について学びながら、それを理由に退職に至るようなことがないよう、正しい知識を伝える講座を考えている。 三つ目は、女性管理職を増やすという国の目標もあるが、女性自ら仕事が忙しくなるのを避けるため、「ちょっと私は管理職に就くのは」と辞退する傾向が多いため、女性管理職としての課題への対応、男性の部下とのコミュニケーションの取り方、女性管理職ならではの課題への対応、職場でのジェンダーバイアスへの対応の仕方等、そういうものを取り上げることが三つ目として考えている。 最後の四番目は、女性管理職として活躍するロールモデルや目標となる人物像を描くため、女性管理職として頑張っておられる方に来てもらい、その方の働き方や考え方を伝えてもらい、キャリア形成を前向きに実施できるヒントを得られるような内容の講座を考えている。 ・PRの仕方はいろいろ試行錯誤してやっているが、引き続き、X（旧Twitter）、フェイスブックでの情報発信に取り組んでいきたい。他にもYouTube動画等ウィズチャンネルと称して、短いものを少しずつ上げているところである。先週もYouTubeに総合相談の広報を流したら、遠方の若い方から相談電話があったり、実際に目に見えてきた。今後もSNSを通じて、試行錯誤しながらやっていく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・予定されている講座の内容について、仕事と家庭の両立支援は、企業の経営側の取組への支援が重要だ。経営側が仕事と家庭の両立支援への対応を工夫することにより、企業の業績が非常に良くなるという観点と、雇用されている方にも利点があるといった両方の切り口で実施すれば良いと感じる。 ・DVについて、加害者側をいかに減らすかということが重要だ。啓発サポーター養成研修では、加害者側が自分が行っていることがDVだということを認識させることにより、DVをやめる方向に持って行ける取り組みが大事である。

議事	概要
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・男性、女性の企業側の意識の変容に向けてアプローチについて、来年度と取組として「男性の育児休業取得等促進事業」がある。育児の意識を男性にも浸透させていく目的で、県が補助金制度を設けることにより、男性の育休を取りやすいように企業に働きかけをしていく事業である。この補助金は研修を義務づけた上、育児休暇を取得した者（企業）に対して交付をするものなので、企業の取組みが広がっていくと考えている。
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・DV被害者の件については、全国的に内閣府が最近「DV加害者更生プログラム」という名称で取り組まれているが、全国的に手がけている都道府県は少ないのが実情である。加害者への取組については、他県の状況も情報収集していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者に対して何かするというのではなくて、一般的な方々に対して、DVがどういうものを啓蒙や広報することにより、DVに気づいてもらうことにより、DVが減らせるのではないかという意味合いである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県のジェンダー差別の実態というのが、見えにくい。見える化をするため調査事業があっても良い。先ほどの啓発の部分も含めて、具体的な実態を示すため、当事者の声を集めたり、DV防止の声を社会に届けるといった参加型のものが良いと思う。若い世代への周知というところでは、教育委員会との連携をより強化していく必要がある。 ・具体的に差別や人権の尊重というところで防災の分野が重要である。避難所における女性への差別や人権侵害が起こりやすい。関係機関との連携を行い、避難所の運営について、男女共同参画の視点の周知をしていく指針をきちんと示すことが重要である。 ・PRのところだが、資料の見せ方等デザインを変えていくとか、見やすい形に変えていくなど工夫し、新しい事業にも取り組まれてはどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の受講者を増加させるための施策は特に予算化されていないが、男性を増やすのは、男性が全然利用できていないということでは、結果として男性の不満がたまり、それが男女共同参画施策全体への批判として現れるということが全国各地で起こっていることである。だからこそ、男性を巻き込むということがウィズプランに出ていると思う。男性の3割を巻き込めれば、男女共同参画について、色々なことが好循環で進む。男性だけに特化した事業は、他の都道府県でも成功例があるはずだから、工夫して3割達成を真剣に考えていただきたい。 ・ウィズプランを無視すると、予算を削減されても当局に対し何も言えない。たった二箇所なので、プランはぜひ意識していただきたい。再就職支援に関しても間違いなくニーズはあるはずだから、同様に取り組んで欲しい。 ・岡山市の男女共同参画事業も実施しているが、行政のプランとの整合性

議事	概要
<p data-bbox="188 353 252 389">委員</p> <p data-bbox="193 741 312 777">4 閉会</p>	<p data-bbox="483 235 1430 315">は、厳粛に考えて事業を実施している。せめてウィズセンターが行うと記述されている2箇所は、必死になっていただきたい。</p> <ul data-bbox="469 342 1430 663" style="list-style-type: none"> ・加えて、資料の最初のほうに、ウィズセンターの目標、理念を書いた資料を入れて欲しい。年に運営委員会の開催は2回なので、ウィズセンターは何を目標にしているか再認識する必要があるためである。抜粋でかまわないので、6月開催の時には資料に加えて欲しい。 ・各運営委員から色々と様々のご意見をいただいた。ウィズセンターには、いただいたご意見を参考に、今後の男女共同参画施策を推進されるようお願いする。 <p data-bbox="1315 734 1390 770">以上</p> <p data-bbox="951 792 1430 824"><速報のため事後修正の可能性有り></p>